

2012年度 第1四半期 連結決算概要

2012年 7月31日
パナソニック株式会社
河井 英明

第1四半期 決算のポイント

2

1. 売上高は、国内デジタルAV商品の
需要低迷の影響を受け減収
2. 営業利益は、固定費圧縮などの
経営体質強化により増益
3. 税引前利益と純利益は黒字転換

1. 第1四半期 連結決算概要

2. セグメント別分析

(注)11年度1Qのセグメント情報及び商品の販売金額は、12年度1Qの形態に合わせて組み替え表示しております。

第1四半期 連結決算概要

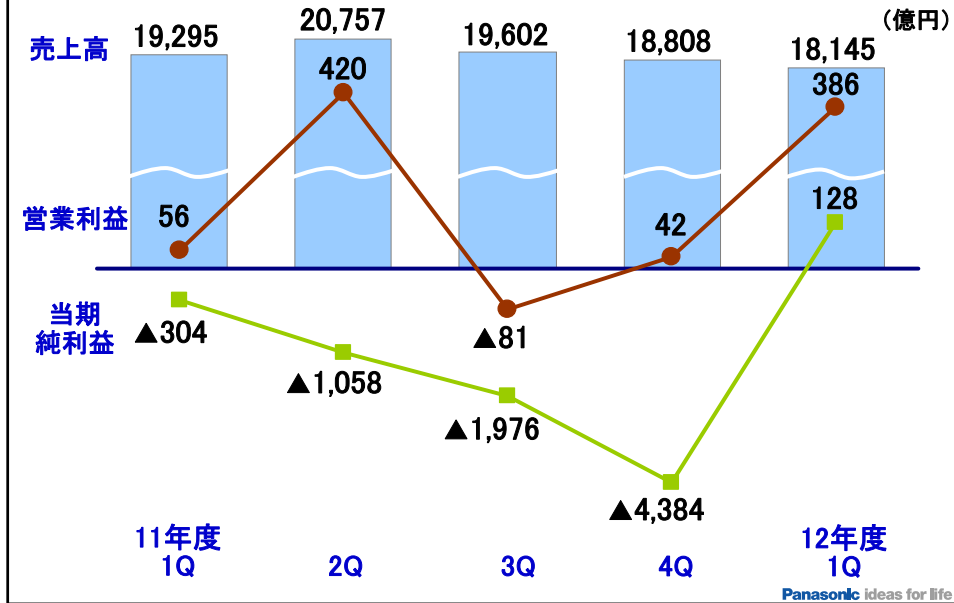
(億円)

	12年度 1Q	11年度 1Q	前年比/差	
国内	9,221	9,676	95%	
海外	8,924	9,619	93% (97%)*	
売上高	18,145	19,295	94% (96%)* ▲1,150	
営業利益	386 (2.1%)	56 (0.3%)	692% +330	
税引前利益	378 (2.1%)	▲174 (▲0.9%)	- +552	
当社株主に 帰属する 当期純利益	128 (0.7%)	▲304 (▲1.6%)	- +432	

* 為替の影響を除いた実質ベース(非監査)

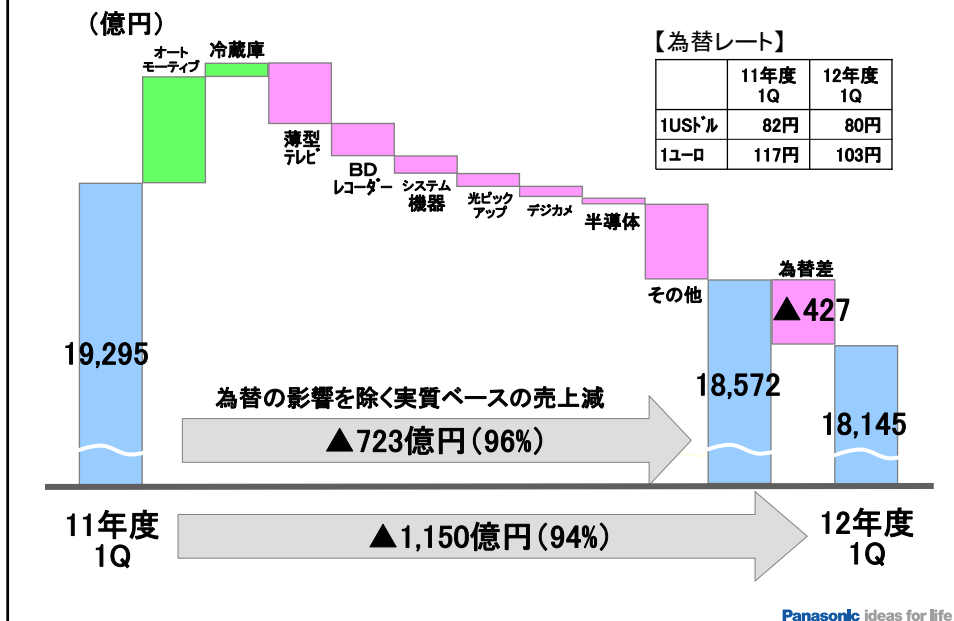
四半期別業績推移

5



第1四半期 商品別売上高分析

6



第1四半期 地域別販売概況

7

(億円)

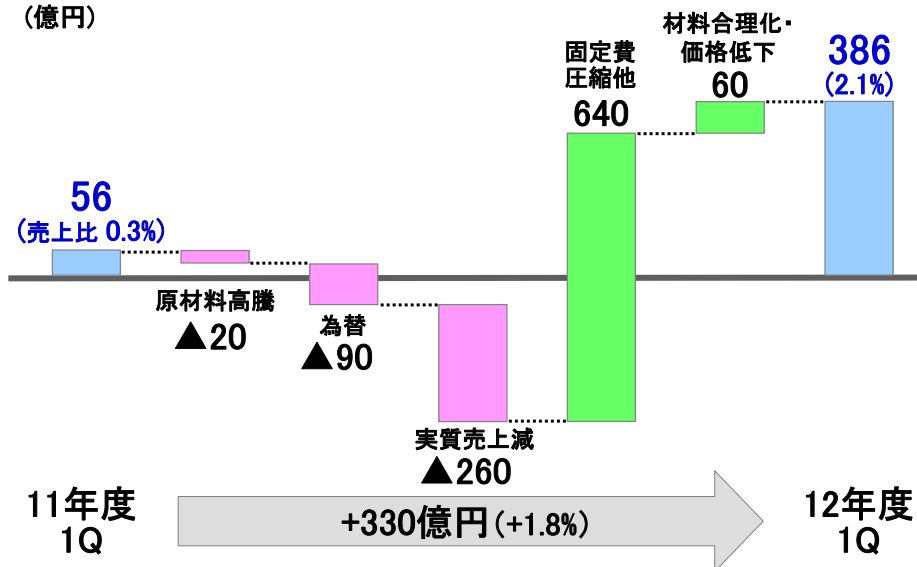
	売上高	前年比		構成比(前年差)	
		円ベース	現地通貨ベース		
日本	9,221	95%	-	51%	(+1%)
米州	2,440	102%	105%	13%	49% (▲1%)
欧州	1,682	85%	96%	9%	
アジア	2,275	90%	95%	13%	
中国	2,527	93%	94%	14%	
合計	18,145	94%	96%	100%	

Panasonic ideas for life

第1四半期 営業利益分析

8

(億円)



Panasonic ideas for life

営業外損益・法人税等の主な増減要因

9

(1Q)

(億円)

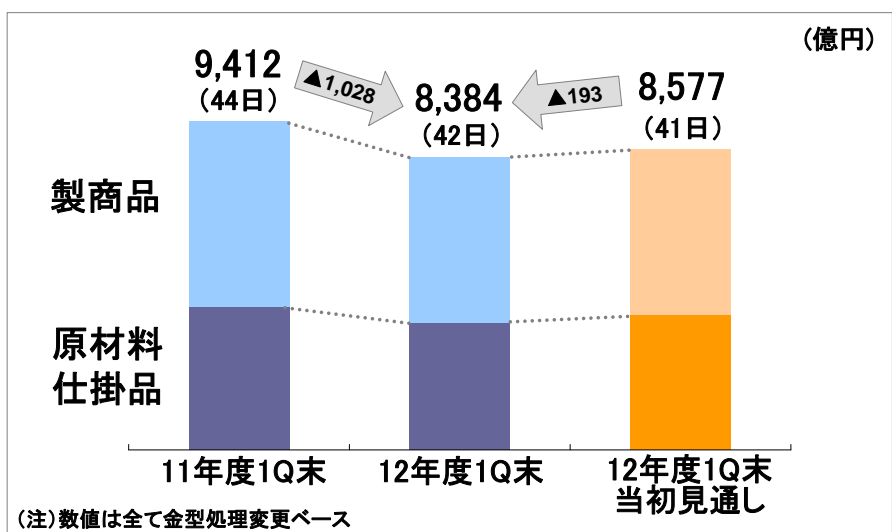
	実績	前年差
営業利益	386	+330
金融収支	▲ 6	+5
早期退職一時金	▲ 4	+32
その他	2	+185
営業外損益	▲ 8	+222
税引前利益	378	+552
法人税等(増減の▲は法人税増)	274	▲ 99
持分法による投資利益	7	▲ 16
非支配持分帰属利益控除前当期純利益	111	+437
非支配持分帰属利益(増減の▲は控除)	▲ 17	▲ 5
当社株主に帰属する当期純利益	128	+432

Panasonic ideas for life

棚卸資産

10

前年から金額・日数ともに着実に削減

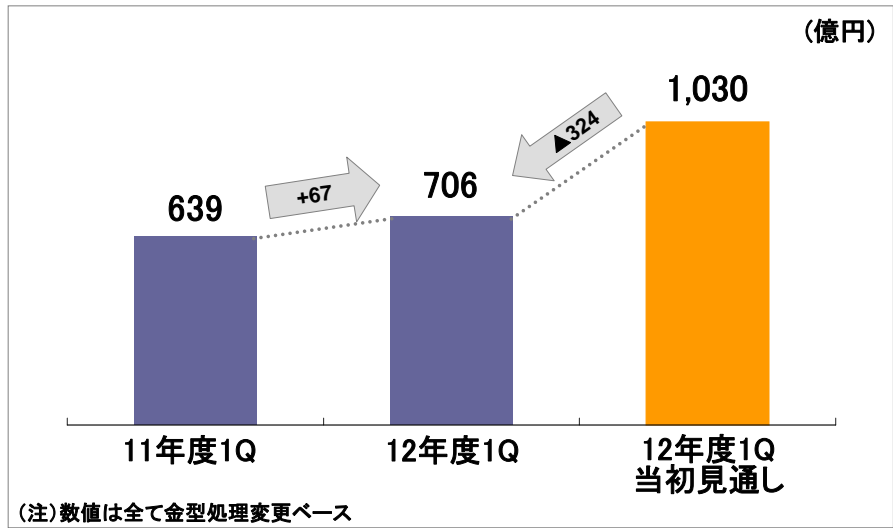


Panasonic ideas for life

設備投資

11

蘇州など海外電池工場への投資により前年から微増

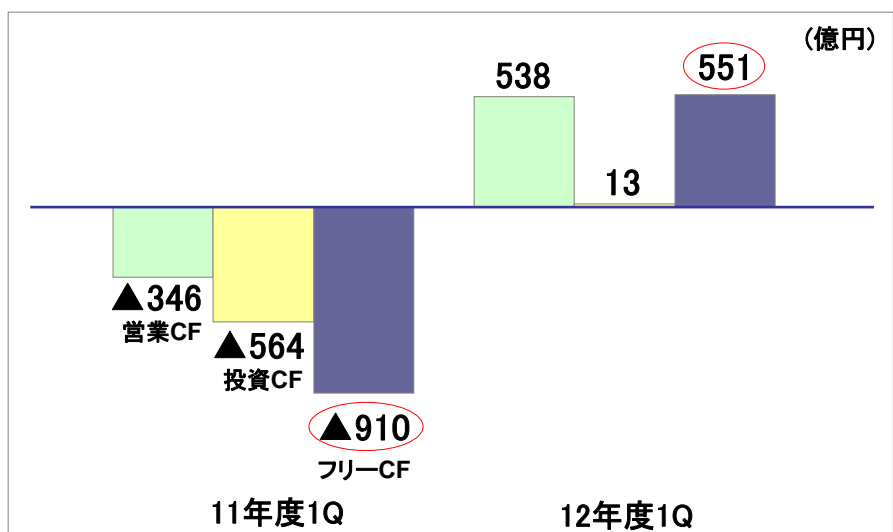


Panasonic ideas for life

フリー・キャッシュ・フロー

12

純利益向上、運転資本良化、株式売却等により大幅改善



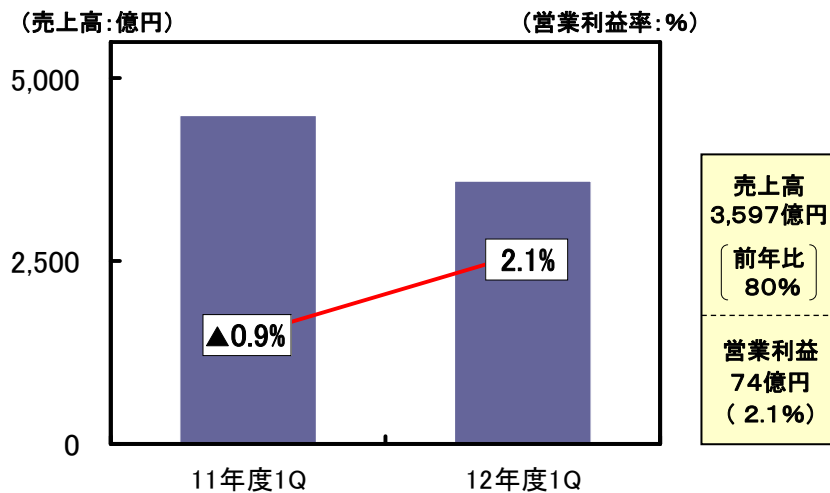
Panasonic ideas for life

1. 第1四半期 連結決算概要

2. セグメント別分析

(注)11年度1Qのセグメント情報及び商品の販売金額は、12年度1Qの形態に合わせて組み替え表示しております。

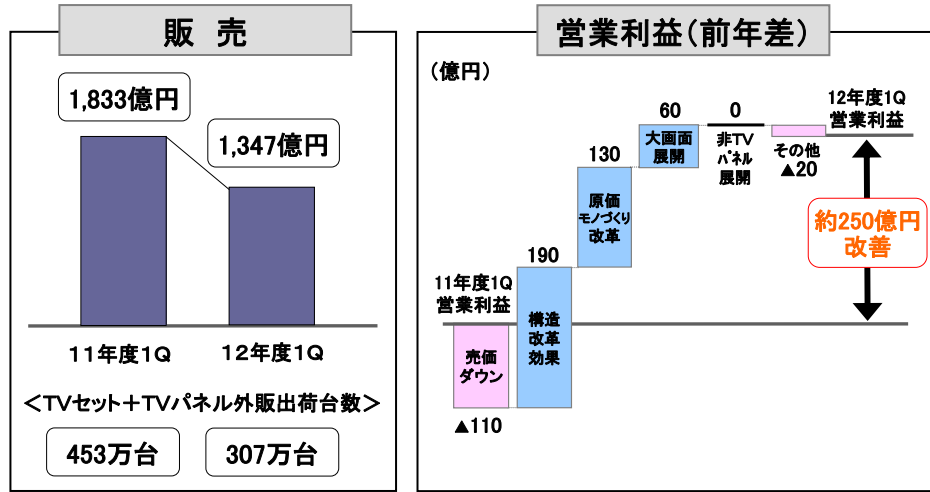
構造改革効果や固定費削減で収益大幅改善



テレビ／パネル事業の状況

15

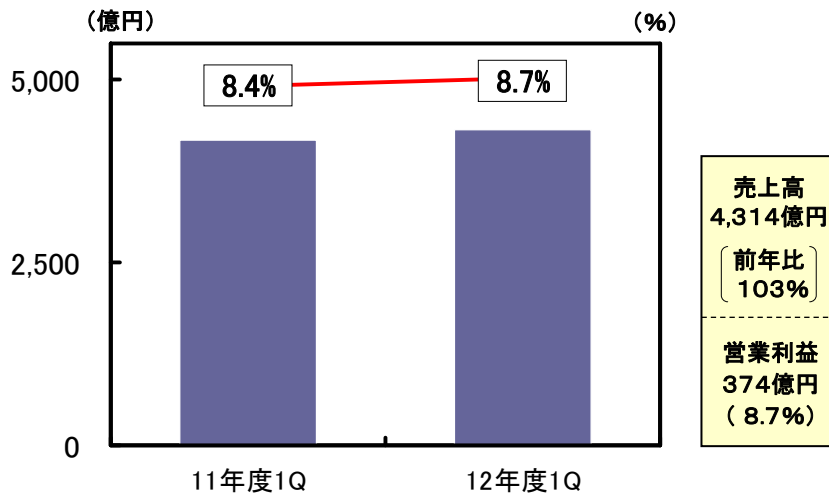
収益が順調に改善、セットは黒字化



アプライアンス

16

冷蔵庫や洗濯機が牽引し、増収増益

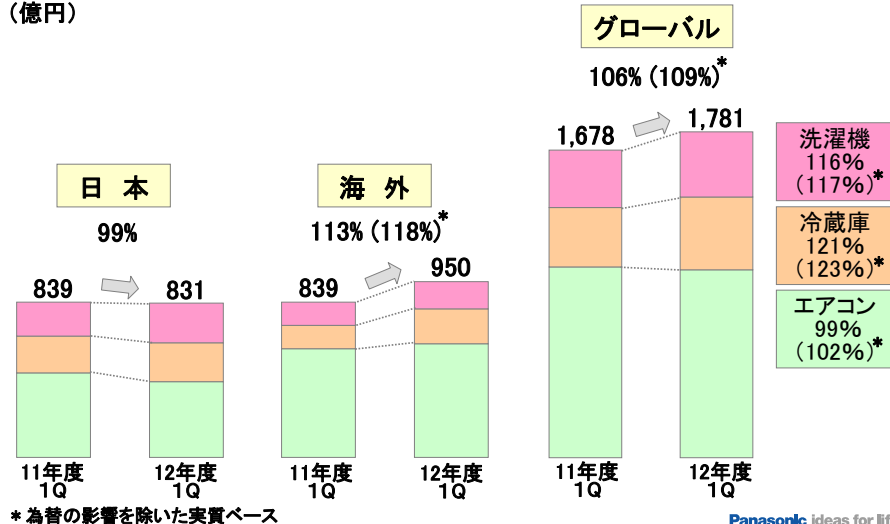


白物主要3商品の販売動向

17

海外販売が2桁成長で好調に推移

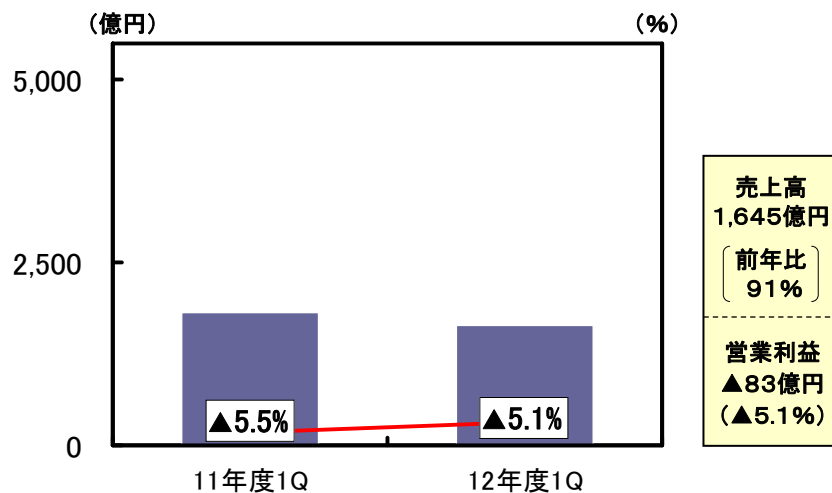
(億円)



システムコミュニケーションズ

18

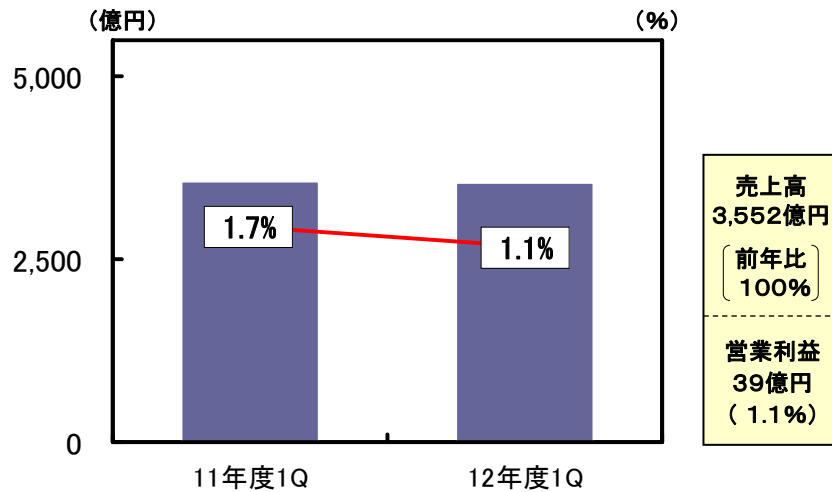
システム関連機器の不振、減収により損失計上



エコソリューションズ

19

売上は前年並みを確保するも減益

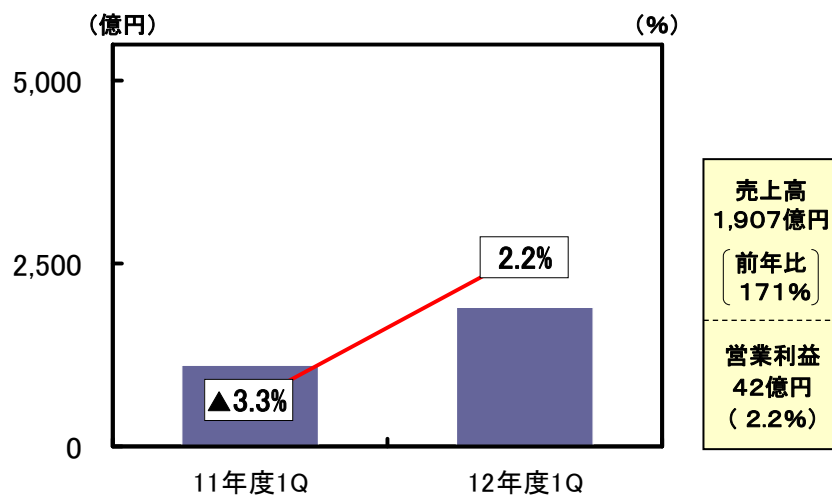


Panasonic ideas for life

オートモーティブシステムズ

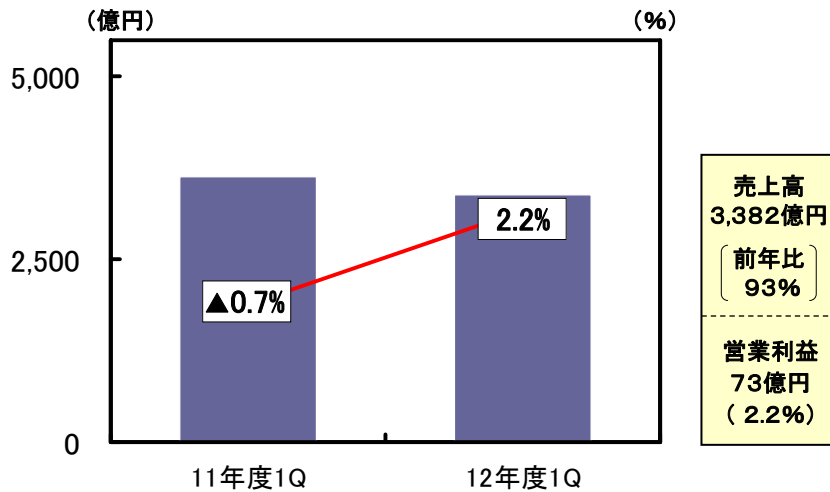
20

東日本大震災の影響を受けた前年に比べ大幅増収増益

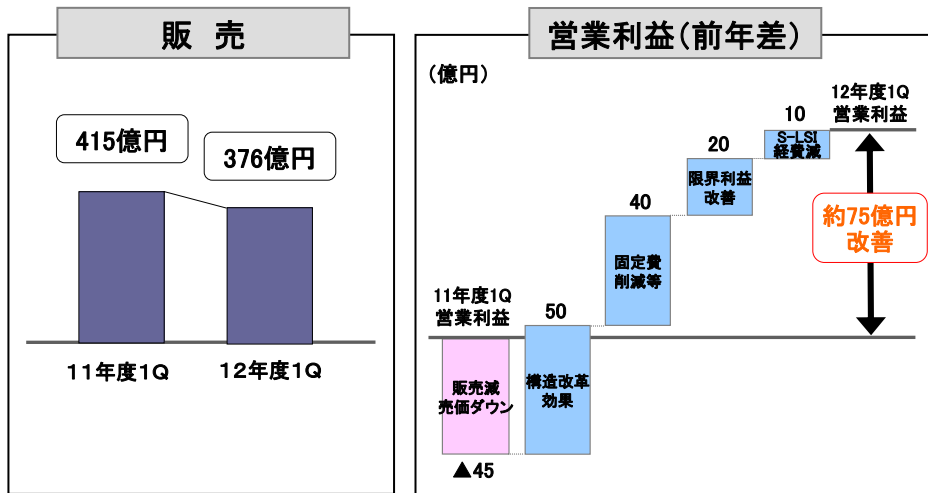


Panasonic ideas for life

構造改革効果や固定費削減で収益改善



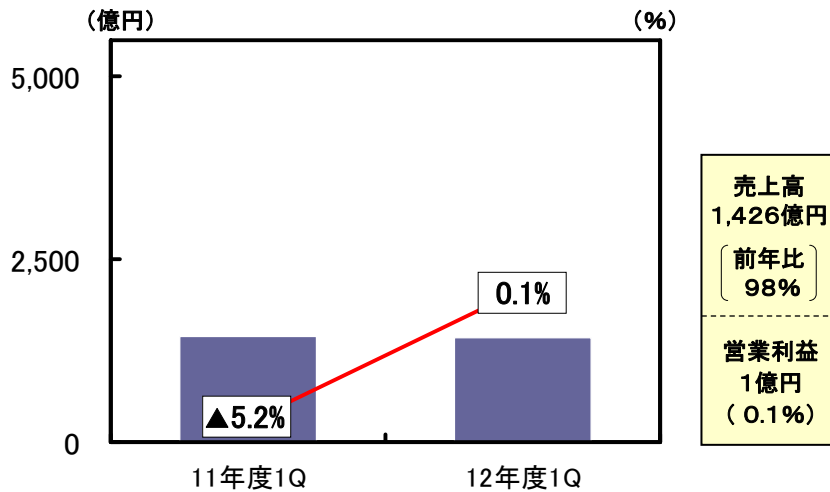
販売に依存しない経営体質づくりと合理化を加速



エネルギー

23

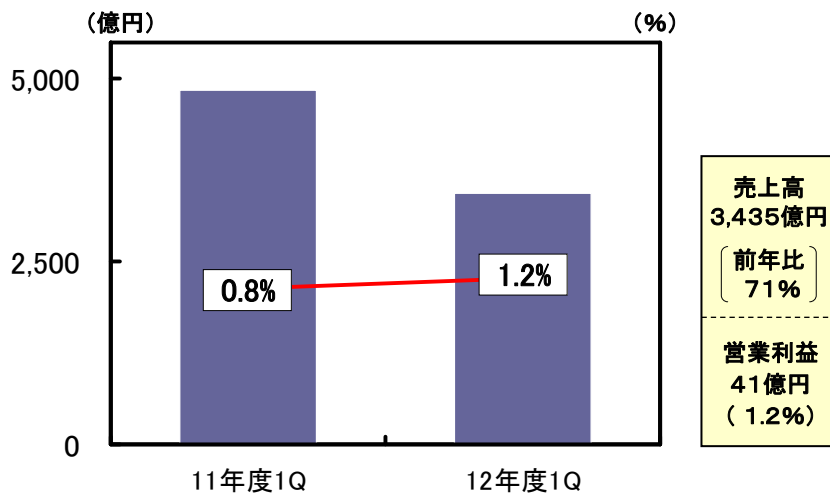
車載電池、民生リチウムイオンの収益改善等により黒字転換



その他

24

事業譲渡などにより減収ながら固定費削減により増益



第1四半期 ヘルスケア社・MS社の実績 25

(億円)	ヘルスケア社		MS社*	
	実績	前年比/差	実績	前年比/差
	売上高	323	103%	446
営業利益	18 (5.6%)	+ 9	63 (14.2%)	▲ 4

* マニュファクチャリングソリューションズ社

Panasonic ideas for life

当社が今後目指す経営 26

1. 収益性を重視

2. キャッシュフロー経営を徹底

3. 財務基盤の建て直し

Panasonic ideas for life

Panasonic

ideas for life

本プレゼンテーションには、パナソニックグループの「将来予想に関する記述 (forward-looking statements)」（米国1933年証券法第27条Aおよび米国1934年証券取引所法第21条Eに規定される意味を有する）に該当する情報が記載されています。本プレゼンテーションにおける記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされたパナソニックグループの仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受けるおそれがあります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示されるパナソニックグループの将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。パナソニックグループは、本プレゼンテーションの日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、米国1934年証券取引所法に基づく今後の米国証券取引委員会への届出等において当社の行う開示をご参照下さい。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、当社の有価証券報告書等にも記載されていますのでご参照下さい。

- 米国、欧州、日本、中国その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費および企業による設備投資の動向
- 多岐にわたる製品・地域市場におけるエレクトロニクス機器および部品に対する産業界や消費者の需要の変動
- 為替相場の変動（特に円、米ドル、ユーロ、人民元、アジア諸国の各通貨ならびにパナソニックグループが事業を行っている地域の通貨またはパナソニックグループの資産および負債が表記されている通貨）
- 資金調達環境の変化等により、パナソニックグループの資金調達コストが増加する可能性
- 急速な技術革新および変わりやすい消費者嗜好に対応し、新製品を価格・技術競争の激しい市場へ遅滞なくかつ低コストで投入するパナソニックグループの能力
- 他企業との提携またはM&A（パナソニック電工および三洋電機の完全子会社化後の事業再編を含む）で期待どりの成果を上げられない可能性
- パナソニックグループが他企業と提携・協調する事業の動向
- 多岐にわたる製品分野および地域において競争力を維持するパナソニックグループの能力
- 製品やサービスに関する何らかの欠陥・瑕疵等により費用負担が生じる可能性
- 第三者の特許その他の知的財産権を使用する上での制約
- 諸外国による現在および将来の貿易・通商規制、労働・生産体制への何らかの規制等（直接・間接を問わない）
- パナソニックグループが保有する有価証券およびその他資産の時価や有形固定資産、のれんなどの長期性資産および繰延税金資産等の評価の変動、その他会計上の方針や規制の変更・強化
- 地震等自然災害の発生、感染症の世界的流行、サプライチェーンの寸断、その他パナソニックグループの事業活動に混乱を与える可能性のある要素

※営業利益（損失）は、日本の会計慣行に従い、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。米国で一般に公正妥当と認められた会計原則では、連結損益計算書においてその他の特定の費用（長期性資産の評価減や構造改革費用等）は営業利益（損失）に含まれます。